

令和5年度 がん検診施策の推進に関する取組

資料9

※令和5年度東京都予算案が東京都議会で可決された場合に実施

1 がん予防・検診受診率向上事業 がん検診受診率底上げキャンペーン

【現状と課題】

■ コロナ禍によるがん検診の受診控えの発生とその継続の恐れ

コロナ禍における受診控えは、緊急事態宣言等による住民検診の中止や延期、コロナ感染リスクが高いとされる高齢世代を中心に外出を控えたことなどが影響したものと考えられる。現在の受診者数は回復基調にあるものの、**コロナ禍は継続**しており依然として予断を許さない。

➡ コロナ禍が継続する中、住民検診で比較的多いと考えられる高齢世代の受診者数減が影響し、今後、進行がんの発見数が増えると懸念されることから、一人でも多くの方にがん検診を受診してもらえるよう、引き続き受診勧奨を啓発していく必要。

■ 60歳代以降の受診率低下

全てのがん種において、概ね**40～50歳代をピークに年代が上がるにつれて受診率が減少**する。これは退職後、社会保険から国民健康保険への切り替えを行う際のがん検診の案内が不十分であることや、対象年代の方が、年齢を重ねても自身の健康を過信するがゆえに検診受診への意識が低いことなどが考えられる。

➡ 医療保険の切り替え時に、がん検診は職域から地域での検診になり、申し込みが必要となることなどを案内し、継続受診による早期発見を促す取組が重要。

■ がん検診の受診推奨年齢の設定

令和3年10月に改正された国指針では、全がん種について「**受診を特に推奨する者を69歳以下の者とする**」と示された。

一方で、これまで、ライフステージに応じた重点啓発対象を定め、普及啓発を行ってきたが、60歳代を特に焦点にした既存の取組はない。

高齢世代の受診率減少傾向等を踏まえ、従来の受診率向上に資する取組とは別に、短期集中的な取組として、60歳代に対し、継続的に検診を受ける重要性や安心して検診を受けられることを啓発

☞ がんサバイバー等を活用した動画の放映による普及啓発の実施

実体験など強いメッセージ性を発信できるサバイバー等を活用した、60歳代を中心に訴求する動画を作成し、日常生活の導線上で放映することで、検診受診を自分事として捉え、実際の行動に結びつける

☞ 退職者向けリーフレットの作成

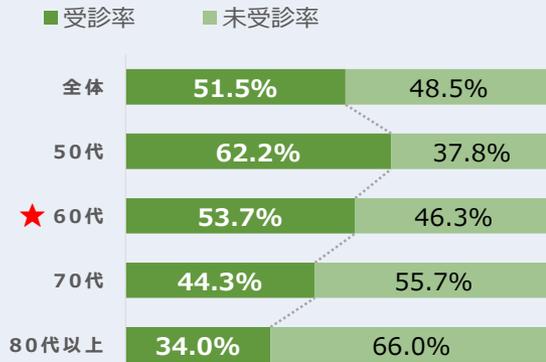
定年退職者が職域の検診から地域の検診へスムーズに移行できるよう案内するリーフレットを作成し、既存の事業や機会を通じて、職域及び区市町村のがん検診・健康管理担当者等の理解を深め、リーフレットの活用を促す

各がん検診の年齢別受診率（令和2年度対象人口率調査）

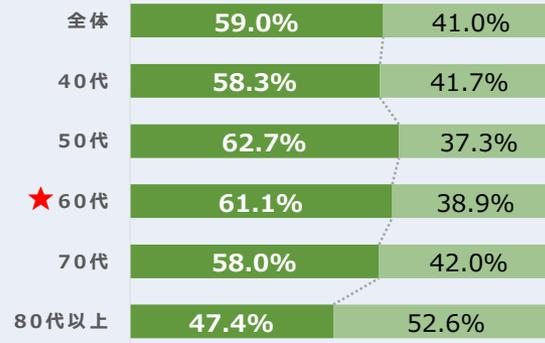
●高齢世代の受診率

全てのがん種（胃がん、大腸がん、肺がん、乳がん、子宮頸がん）において、概ね40～50歳代をピークに年代が上がるにつれて受診率が減少する。

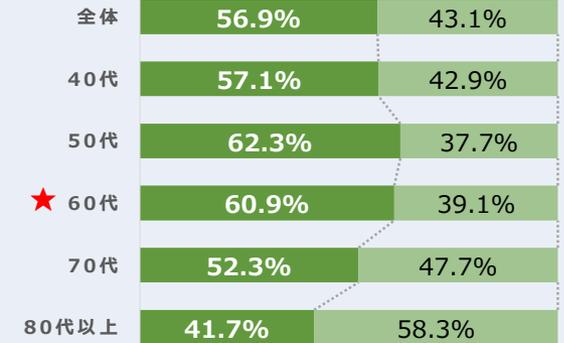
胃がん検診



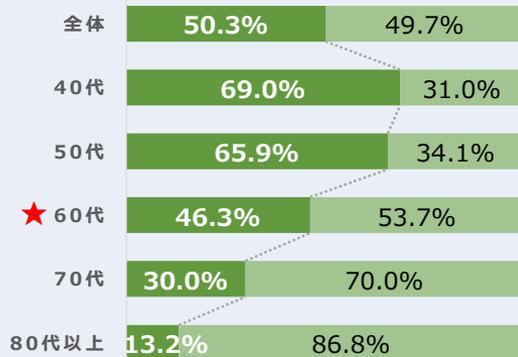
大腸がん検診



肺がん検診



乳がん検診



子宮頸がん検診

